



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロット」

チョコレート

株式会社ロッテ
2026年1月30日(金)

「ガーナチョコレート」×子育て・教育施設『こどもでぱーと』が初コラボ カカオのことを楽しく学ぶ！チョコレート授業を開催

“カカオハスク”をアップサイクルしたノート「ReCacao Note」を同施設内で配布！

株式会社ロッテ(本社:東京都新宿区)は、「ガーナチョコレート」とヒューリック株式会社(本社:東京都中央区)が展開する、新たな子育て・教育施設『こどもでぱーと』が業界の垣根を越えて初コラボレーションをした、カカオのこと、チョコレートのことを楽しく学ぶ親子イベントを2026年1月24日(土)に、こどもでぱーと中野にて開催しました。

ロッテは、社会貢献としての取り組み「A Happy Cycle with Cocoa」を推進中です。その一環として、チョコレートの原料であるカカオ豆の皮である“カカオハスク”をアップサイクルしたノートを子どもたちにお届けする「ReCacao Note PROJECT」を実施。カカオ豆をあますことなく有効活用したノートを同施設内の子どもたちに配布しました。

当日は、カカオのこと、チョコレートのことを知ってもらうためのチョコレート授業を開催しました。チョコレートのこと(原料・製造工程)を学べる授業に加えて、「ガーナチョコレート」を使ったバレンタインレシピ「トリュフ」や「カップチョコ」作りといった、親子参加型のイベントを実施。普段、食べているチョコレートの原料や製造工程に子どもたちも興味津々な様子で授業を受けていました。また、チョコレートは、カカオポッドと呼ばれる果実の中で育つカカオ豆が主な原料のひとつですが、あまり見ることのない本物のカカオポッドを目の前に、子どもたちは驚きながらも学びをさらに深めていました。授業の最後に、“カカオハスク”をアップサイクルした「ReCacao Note」を寄贈する際には、カカオへの関心が生まれ、無駄なく活用したノートに大変喜ぶ子どもたちでした。



×



Kodomo Depart
こどもでぱーと



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロッテ」

▼ロッテ社員が授業をしている様子



▼バレンタインチョコ作り体験



▼カカオハスクで作った「ReCacao Note」を寄贈



▼本物のカカオポッドを前に授業



▼「A Happy Cycle with Cocoa」とは

ロッテは、持続可能なサプライチェーンを実現し、チョコレートに関わるすべての人々のしあわせに貢献しながら、おいしいチョコレートを安定的に届けることが使命であると考えています。カカオ豆生産地が抱える課題の解決に取り組むとともに、チョコレートを食べる人に、その取り組みの内容をお伝えすることで共感してもらい、解決への取り組みを加速させる好循環の実現を目指しています。

<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/cocoa/>

▼子育て・教育施設『こどもでぱーと』とは

『こどもでぱーと』とは、ヒューリック株式会社が展開する新たな子育て・教育施設です。託児所、習い事教室、親子カフェ等、子育てや教育機能を集約し、こども一人ひとりに合った最適な教育サービスを提供しています。また、コンシェルジュや送迎機能を実装し、こどもの教育における保護者の不便や不安を解消する付加価値サービスも併せて提供します。本施設での学びや体験を通し、こどもたちの多様な知的好奇心を育みながら一人ひとりの未来を創造することを目指します。

<https://kodomo-depart.jp/>

社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロッテ」



＜ガーナ共和国での取り組み＞

ガーナの子どもたちへのカカオ授業・オリジナルノートの寄贈

社会貢献としての取り組み「A Happy Cycle with Cocoa」の「ReCacao Note PROJECT」の一環として、日本とガーナ共和国の両国の子どもたちの教育支援活動を実施しました。“カカオハスク”をアップサイクルした「ReCacao Note」を日本国内の子どもたちに寄贈、ガーナ共和国の子どもたちには現地で生産したオリジナルノートを送りました。

また、ガーナ共和国におけるノート寄贈にあわせた活動として、ロッテ社員がガーナの小学校に赴き、カカオの授業を行いました(2025年12月)。子どもたちに、カカオ豆が日本でおいしいチョコレートとして笑顔を描いていることを授業を通して伝えました。くわえて、今回の訪問では、チョコレートが日本で、母の日やバレンタインの際に、「ありがとう」や「大好き」といった、気持ちを伝える“言葉の代用品”として親しまれていることも紹介しました。そこで、ガーナの子どもたちが、身近な大切な人に、普段気恥ずかしくて伝えきれていないメッセージをチョコレートを通して伝えるといった、こころ温まるひとときをお届けする取り組みも実施しました。今回の授業を通して、カカオから作られるチョコレートがおいしいお菓子の枠を越えて、世界中の人を笑顔にしていることを知ってもらうことができました。

今後もロッテは、「A Happy Cycle with Cocoa」の活動を通じて、子どもたちをはじめ、チョコレートに関わるすべての人に笑顔をもたらす取り組みをしてまいります。



▲ガーナ共和国の皆さんとロッテ社員

▼ガーナの子どもたちに授業をするロッテ社員



▼楽しむ様子で授業を受ける子どもたち



▼オリジナルノートを寄贈



▼家族へのお手紙をチョコレートと一緒にラッピング



▼お手紙とチョコレートを渡す子どもたち

